



***** ご案内 *****

センシング技術応用研究会第213回研究例会を、下記の通り開催いたします。研究例会のご参加は事前申し込みが必要です。11月18日(水)までに事務局までお申し込み下さい。多数お誘い合わせの上、ご来会いただきますようご案内申し上げます。又、オンラインでのご参加も可能です。オンラインでご参加される場合は事前にURL等をお送り致しますので、送付先のE-mailアドレスおよび電話番号を必ずご連絡ください。又、現地にご参加頂ける場合は、マスクを着用して下さいますようお願い申し上げます。 **研究例会参加費：会員 無料、非会員 8,000円**

記

日 時 令和2年11月25日(水) 13:30~16:20

場 所 堺市産業振興センター 4階 セミナー室 3

(大阪府堺市北区長曾根町183-5) ※オンライン参加可能。

アクセス 地下鉄御堂筋線なかもず駅8番出口より300m

南海高野線中百舌鳥駅北出口より300m

主 催 センシング技術応用研究会

連絡先・申込先 センシング技術応用研究会 事務局

TEL:0725-51-2534 FAX:0725-51-2597 E-mail:sstj@dantai.tri-osaka.jp

*参加者名、所属、連絡先住所・電話番号、メールアドレス、ご希望の参加形態(現地/Online) Online参加をご希望の場合は web招待メールの送信先アドレスをご記入の上、申し込み先にメールまたはFAXでお申し込みください。



— 講演 —

(13:30~14:30)

「ニオイで菌を探る：文化財環境における真菌検出システムの開発と学術展開」

奈良女子大学 自然科学系 准教授 竹内 孝江 氏

古墳や博物館などの文化財において、カビ(真菌)による損傷が問題になっています。キトラ古墳では、ペニシリウム属やフザリウム属などのカビが発生したため、壁面に損傷を与えました。カビによる損傷を少なくするためには、カビの発生を迅速に検出する方法の開発が必要です。私達は、カビのニオイ計測によりカビの種類・成長段階を特定する手法やソフトウェアを研究開発しました。カビ種・生育段階・生育環境とカビのニオイ物質との関係や文化財の現地でのカビのモニタリングについて紹介します。

— 休憩 —

(14:30~14:40)

— 講演 —

(14:40~15:40)

「AIによる画像処理とモデル化：モダリティ変換などの応用事例」

大阪大学大学院 基礎工学研究科 准教授 松原 崇 氏

本講演ではAIによる画像処理とモデル化について、画像モダリティ変換を例に上げ、その基盤技術である敵対生成ネットワーク(GAN)と深層生成モデルについて紹介します。先端の研究をご紹介する予定ですが、理論よりも考え方や応用事例に重きを置く予定です。

— 休憩 —

(15:40~15:50)

— 製品紹介 —

(15:50~16:20)

「自動成分分析装置 PX 375 [ターゲット物質 TSP, PM10, PM2.5] について」

株式会社堀場製作所 開発本部 環境・P₀吸入事業センター 環境P₀吸入開発部

松本 絵里佳 氏

粒子状物質を連続捕集し、質量濃度(β線吸収法)と元素濃度(蛍光X線分析法)の組み合わせ装置を紹介します。発生源の特定・発生メカニズム解明のため、1時間ごとにどのような物質から構成されているかを把握することが効果的な対策を行う上で重要です。